

巻頭言

技術革新への想い

東日本旅客鉄道株式会社
執行役員 総合企画本部 技術企画部長

尾高 達男



企業が発展するためには、お客さまが求めている製品やサービスを提供し続ける必要があります。確かに技術者の立場では、その製品やサービスの機能の面を注目しがちですが、お客さまの立場を理解した取り組みをしないと会社は発展、持続できないと、考えております。お客さまが求めている製品の提供やサービスを実践するのは人です。当社においても、昨今の技術とサービスが融合していく中で、「経営環境の変化」や「業務革新の必要性」を見据えて研究開発に取り組んでおり、それを担う人材の育成にも重きをおいています。

研究開発において、必ずしも自社独自の取り組みだけで解決されるわけではありません。そのため、当社では独自の研究開発のみならず、オープンイノベーションの考えに立ち、外部のさまざまな技術や知識を取り入れた研究開発を進めています。

私も先日、ヨーロッパ諸国を訪問し、さまざまな企業や人と意見交換をしました。お客さまが求めているサービスも異なるなど、大きな刺激を受けました。グローバル化が進む中、相手の文化や考え方を意識した研究開発を進めていかなければならないと感じております。

限られた資源(人、物、金 など)、時間を有効に活用していかなければなりません。この点、機能とコストに着目し、チームで取り組むというVEの手法は、研究開発という新しいことにチャレンジしていく取り組みの中で、有効な手法の一つだと思います。

当社内においてもその都度、「何のためにやるのか」、「なぜやるのか」を日々、社員に問いかけながら、研究開発を進めています。

さらに、VEの手法は個人ではなく「チーム」ということを意識した取り組みとなっています。チームとなるとさまざまな経験や知識のある人の集まりとなるので、思いがけない意見やアイデアが創造されます。このような経験はチームメンバーその人を育てることにつながり、企業発展の原動力になると私は考えております。その意味では、VEの考え方は人材育成にも役立つものだと感じています。

ここで、当社におけるVEの取り組みについて紹介します。

会社が発足した1987年には建設工事部門で導入の検討を行い、1989年から建設工事部門で本格的に導入を開始しました。その後、研究開発や車両の製作部門と拡大してきました。社内でVEの勉強会を開催するなど、VEの手法の理解を深める他、VELの資格取得者を拡大していくなど、さらなるVE活動の活性化に向け取り組んでおりますが、技術的な面だけではなく、サービスの面でもVEの考え方を意識して取り組んでいければと考えております。

私は、この度VE協会の理事という立場でもVEに携わることとなりました。2014年10月に開催された第47回VE全国大会では、中国上海におけるVEの教育、普及への取り組みを受け、海外との連携の重要性を強く感じました。今後、日本国内だけではなく、海外との連携などさらにVEの役割が注目される中、VE活動のさらなる普及、発展に努めてまいります。

今後とも会員の皆様のサポートをお願いいたします。

(筆者は当会常任理事)